

杉山哲雄ピアノリサイタル

TETSUO SUGIYAMA PIANO RECITAL



ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven

ベートーヴェン・チクルスV
〈演奏とトーク〉



ソナタ 第17番 ニ短調 作品31-2「テンペスト」
Sonate für Klavier Nr.17 d-moll Op.31-2 „Tempest“

15の変奏曲とフーガ 変ホ長調 作品35
「エロイカ変奏曲」
Fünfzehn Variationen mit einer Fuge Op.35 „Eroica-Variationen“

ソナタ 第25番 ト長調 作品79
Sonate für Klavier Nr.25 G-dur Op.79

ソナタ 第32番 ハ短調 作品111
Sonate für Klavier Nr.32 c-moll Op.111



2022年 11月12日(土) 14時開演 (13:30開場)

浜離宮朝日ホール (朝日新聞東京本社新館内)

全自由席 4,000円

前売

チケットぴあ t.pia.jp (Pコード226-818)

CNプレイガイド 0570-08-9990 (10:00~18:00) www.cnplayguide.com



チケットぴあ



主催：杉山ミュージック・アカデミー

後援：公益社団法人日本演奏連盟



、公益財団法人日本ピアノ教育連盟 (JPTA)、横浜音楽文化協会

マネジメント・ご予約・お問合せ：Shin・En 新演コンサート 03-6384-2498 <http://www.shin-en.jp>



新型コロナウイルス対策のお願い ●ご入場時の検温で高熱(37.5度以上)の方・症状のある方はご入場を見合わせて頂きます

●手指消毒・マスク(不織布推奨)の着用・咳エチケットにご協力ください●出演者とのご面会は出来ない場合がございます(2022年8月31日現在)

杉山哲雄ピアノリサイタル

TETSUO SUGIYAMA PIANO RECITAL

ベートーヴェン・チクルスV 〈演奏とトーク〉

ベートーヴェンの創造力の源

シェイクスピア

ソナタ 第17番 ニ短調 作品31-2「テンペスト」

作品31の3つのソナタについて、弟子のシンターから曲の理解の鍵になるものがないか尋ねられ、「シェイクスピアの“テンペスト”を読みなさい」と答えたことからこの名がつくようになった。シェイクスピア晩年のこの戯曲は、妖精を含めた登場人物が孤島で繰り広げる明るい復讐劇で、文字通り海の「嵐」の場面で幕が開く。ベートーヴェンは多くのシェイクスピアの作品を愛読していたと言われ、特に「リア王」が気に入っていた・・・「リア王」をオペラ用台本に書き換える作家がいれば、音楽史を塗り替えるようなオペラが生まれていたかも知れない。



緑の自然

ソナタ 第25番 ト長調 作品79

1809年に完成した小規模なソナタ。同じ規模の24番と対を成している、手紙の中で「ト長調ソナタには「やさしいソナタ」または「ソナチネ」と題を付けて下さい」と書いている。第1楽章で、第1主題から導かれた2音の反復が鳥のカッコウを思わせることから、Kuckou Sonate(カッコウ・ソナタ)とも呼ばれる。各楽章に明快な表題をつけた第6交響曲 作品68「田園」の第1楽章で、より洗練されたカッコウの声が音符に託されている。会話を通じた交流が難しくなる中で、自然の中での対話が創造性を含めて重要なことだった。

神に捧げる

ソナタ 第32番 ハ短調 op.111

最後の3つのソナタはほぼ同時に作曲されたが、実際には30番が先に構想され、ソナタ形式から解放されたような2曲を加えて、多くの報酬を得る目的も含まれていた。長年力を注いで完成した大作「ミサ・ソレムニス」作品123の予約をゲーテに誓願する手紙(1823.2.8)の中で「今やわが心を下界のことも用いなければなりません。わが俸給は無俸給となりました。数年来の病気のため、演奏旅行もできず、総じて収入を得られるような機会にはまったく恵まれません。」(小松雄一郎訳)と書いている。最後のソナタは、ハ短調という調性と2つの楽章の対比が明確で、変奏曲の主題にLebewohl(ごきげんよう、さようなら)が当てはまるが、「ミサ・ソレムニス」の冒頭で呼びかけるように歌われる Kyrie(神よ)の音型にも重なり、最後のピアノ・ソナタにふさわしいと言えよう。

ナポレオン

15の変奏曲とフーガ 作品35「エロイカ変奏曲」

1801年に完成したバレエ音楽「プロメテウスの創造物」の終曲を主題として、フーガを持つ揺るぎない構築性の変奏曲が生まれた。主題による統一のなかで創造性を展開する変奏曲は、ベートーヴェンが優れた音楽性を発揮した技法の1つで、1804年に完成した第3交響曲 作品55「英雄」の終楽章でも同じ主題が使われ、副題となった。この交響曲はナポレオンに捧げる意図を持って書いたと言われるが、理想とする共和的な社会の実現とは反対に「皇帝」についてナポレオンに失望して、スコアを破り捨てたという逸話も伝わっている。“英雄的なもの”を音楽で表現した意欲作である。



杉山 哲雄 プロフィール

三重県伊勢市出身。三重県立伊勢高等学校を経て、東京藝術大学器楽科に進む。同大学院修了、1974年クロイツァー賞受賞。1975年9月オーストリア政府給費留学生としてウィーンに留学。1979年ウィーン音楽大学卒業。1980年12月帰国後はリサイタルを中心に演奏活動を行う。オーケストラとの共演も、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、伊勢フィルハーモニー管弦楽団等があり、室内楽やドイツリートの伴奏などにも意欲的に取り組んでいる。1985年バッハ生誕300年記念リサイタルをはじめ、古典調律によるモーツァルトのタペヤ、ベートーヴェンリサイタルを開催。ウィーン古典派の伝統を踏まえた解釈や、シューベルトやシューマンのロマン派の魅力を伝えるプログラムで好評を得ている。また、ショパンの作品における主題の統一やリズムの変容、及びフランス近代音楽の技法にも視点を広げ、指導にも取り入れている。近年はベートーヴェンの作品に焦点を絞り、チクルスとして展開しており、変奏曲やフーガを含む総合的な形式として完成されたベートーヴェンのソナタを中心に、時代様式を意識した演奏により好評を博している。コンクールの審査員も数多く務め、後進の指導にも精力的に取り組んでいる。横浜国立大学名誉教授。杉山ムジーク・アカデミー主宰。

浜離宮朝日ホール

東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階TEL.03-5541-8710

- 「築地市場駅」都営大江戸線(A2出口)すぐ
 - 「築地駅」東京メトロ日比谷線(1・2出口)より徒歩8分
 - 「東銀座駅」東京メトロ日比谷線/都営浅草線(6出口)より徒歩8分
 - 「汐留駅」都営大江戸線(新橋駅方面改札口)/新交通ゆりかもめ(改札口)より徒歩10分
 - 「新橋駅」JR(汐留口)/東京メトロ銀座線(1・2出口)/都営浅草線(改札口)より徒歩15分
- ※ホールに駐車場はございません。

